

開館30年記念

迫田岳臣

古代ガラス復元への挑戦 Recreating Ancient Glass

2024年7月13日(土) - 9月23日(月・振)
高梁市成羽美術館 1階 静水の庭ホール

迫田氏は唐招提寺の国宝や正倉院宝物などの日本の文化財をはじめ、大英博物館所蔵のガラス碗など古代ガラスの復元を実現し、国内外でその業績は高く評価されています。今展では、四半世紀に及ぶ貴重な復元制作の成果と足跡を一堂に展示、ご覧いただく機会といたします。



迫田岳臣

1965年生まれ 岡山県倉敷市在住
倉敷芸術科学大学 主任技術員(芸術学部ガラス領域)
日本ガラス工芸学会 理事

【主な受賞歴】

伊丹国際クラフト展「酒器・酒盃台」 白雪松緑賞(2002, 2004)
工芸都市高岡2002クラフトコンペティション 審査員賞
第57回岡山県美術展覧会 奨励賞(2006)
Glass Craft Triennale 2007 審査員賞

推薦 松島 巖 (コアガラス作家)

迫田氏は復元を一過性の仕事ではなく天職のように感じて長年取り組んできた。そして2023年にはガラスでは初の正倉院宝物再現模造品「瑠璃小尺」と「瑠璃魚形」を完成させた。正倉院事務所長が「どちらが本物かわからないほど再現性が高い」と語っている完成品を今回の高梁市成羽美術館で拝見できるのをとても楽しみにしている。

復元品約20点をパネル解説および制作動画とともに展示。

1	1 正倉院宝物「緑瑠璃十二曲長杯」復元品 2017年(作家蔵)
2	2 唐招提寺 国宝 舍利容器「白瑠璃舍利壺」復元品 2004年(岡山市立オリент美術館蔵)
3	3 「注口把手付瓶」復元品 1999年(岡山市立オリент美術館蔵)
4	4 出光美術館「ゴールド・サンドイッチ・ガラス碗」復元品 2004年(作家蔵)
5	5 正倉院宝物「瑠璃魚形」模造品 2023年(宮内庁正倉院事務所蔵)

記念トークショー

「ガラスの宝物、海を渡る」-唐招提寺と正倉院そして吉備の国-

ガラスはどこから日本にやって来た?
奈良の都と吉備の国、その意外な交流とは?
復元という仕事から推理できることは何?
などなど...日本の古代文化は不思議の宝庫。
いったいどんなお話が飛び交うのでしょうか。
この貴重な機会をぜひお見逃しなく。

出演: 石田 太一(西方院副住職)
西川 明彦(前・宮内庁正倉院事務所長)
迫田 岳臣
司会: 谷一 尚(林原美術館長)
日時: 7月28日(日) 13:30 ~ 15:00
会場: たいこまるプラザ「伊藤記念ホール」
定員: 100名(当日先着順、13:00 開場)
料金: 無料(ただし展覧会チケットが必要です)



アクセス

- JR岡山駅から伯備線(特急やくも)約35分、(普通)約50分、備中高梁駅下車。バスセンターから成羽方面への備北バス約20分、「成羽」停留所下車、「たいこまるプラザ」隣
- 山陽自動車道 倉敷ICまたは笠岡ICから約50分
- 岡山自動車道 賀陽ICから約30分、岡山総社IC、有漢ICから約40分
- 中国自動車道 北房ICまたは新見ICから約50分
- 岡山空港から車で約60分



同時開催

「写真展 岩合光昭の日本ねこ歩き」



高梁市成羽美術館
NARIWA MUSEUM

〒716-0111 岡山県高梁市成羽町下原1068-3
TEL 0866-42-4455 FAX 0866-42-4451
<https://nariwa-museum.or.jp/>